

観測企画運営委員会の 活動報告

キーワード：過去最多

山中雅之（京都大学）、
高木聖子（北海道大学）、高橋隼（兵庫県立大学）、
Malte Schramm、大朝由美子、宝田拓也（埼玉大学）、
中岡竜也（広島大学）、永山貴宏（鹿児島大学）、野上大作（京都大学）、
村田勝寛（東京工業大学）、楠根貴成、森鼻久美子、（名古屋大学）、
諸隈 智貴（東京大学）、花山秀和、堀内貴史、関口和寛（国立天文台）

観測企画運営委員会とは

光赤外線天文学大学間連携規約より一部引用

本事業に参加している組織から1-2名を選出し、**事業を円滑に進める現場レベルの実務**担当を担う観測企画運営委員会を設置する。

本委員会で**方針や決まり事などを審議・提案**し、運営協議会および他のメンバーへの了承を得る形で事業を進める。
<以下略>

昨年12月以降の観測企画運営委員会

この1年間は全てzoomシステムで開催（コロナ禍以前はF2Fでのミーティングも）

昨年以降の主な人員異動

- ・ 埼玉大学 宝田 -> Malte Schramm 、 大朝
- ・ 名古屋大学 森鼻 -> 楠根

これまでの日程と会議出席者

2019/12/17 宝田、高木、高橋、中岡、永山、野上、花山、堀内、村田、森鼻、諸隈、山中
2019/01/09 高木、高橋、宝田、中岡、永山、野上、花山、堀内、村田、森鼻、山中
2020/02/12 高木、高橋、宝田、中岡、永山、野上、諸隈、花山、堀内、村田、森鼻、山中
2020/03/04 高木、高橋、宝田、中岡、永山、野上、諸隈、村田、森鼻、山中
2020/04/09 大朝、楠根、高木、高橋、中岡、永山、野上、花山、堀内、諸隈、村田、山中
2020/05/14 大朝、川端、楠根、高木、高橋、中岡、永山、野上、花山、堀内、諸隈、村田、山中
2020/06/18 大朝、楠根、高木、高橋、中岡、永山、野上、花山、堀内、村田、山中
2020/07/10 楠根、高木、高橋、永山、野上、堀内、村田、諸隈、山中、Schramm、太田、川端
2020/08/07 大朝、楠根、高木、中岡、永山、野上、堀内、村田、諸隈、山中、Schramm
2020/08/27 楠根、高木、高橋、中岡、永山、野上、堀内、村田、諸隈、山中、Schramm
2020/09/24 大朝、楠根、高木、高橋、中岡、永山、野上、堀内、村田、山中、Schramm
2020/10/19 大朝、楠根、高木、高橋、中岡、永山、野上、堀内、村田、山中、Schramm
(2020/11/05) 楠根、高木、高橋、中岡、永山、野上、堀内、村田、山中

この1年で話し合われた議題

緑 = 第二期から 青字 = 今年初めて

第10回定例WSの総括

2020年天文学会春季年会企画セッション（残念ながらコロナ禍で不開催）

観測提案プロポーザルの公募

各機関からの望遠鏡・装置に関する報告

観測検討会の開催

OISTERプロポーザル評価

せいめい・大学望遠鏡UMにおけるOISTERの立ち位置

PASJ OISTER特集号

OISTERまとめ論文について

短期滞在実習

初心者向けIRAF講習会の開催

Python もくもく会

第三期OISTER概算要求について

進捗報告会

規約改訂

旅費以外での観測企画運営委員会割当予算の使途

天文学会春季年会企画セッション (コロナ禍にて不開催)

突発現象天文学と大学教育における大学望遠鏡のシナジー

| | | | | | |
|--|-------|--|--|--|--|
| 2020年3月16日(月) 午後(13:00-15:00) [B会場] | | 10:18 | Z415a | Tomoe Gozenサーベイを使った近傍重力マイクロレンズ探索 福井曉彦(東京大学) | |
| 13:00 | Z401r | OISTERで実現したこと、いま目指すべき道 川端弘治(広島大学) | 10:30 | Z416a | MU レーダと Tomoe Gozen による微光流星同時観測 大澤亮(東京大学) |
| 13:21 | Z402r | OISTERと電波源突発現象とのシナジー 内山瑞穂(国立天文台) | 10:42 | Z417a | 重力波観測ランO3におけるJ-GEMによる電磁波対応天体探索 笹田真人(広島大学) |
| 13:42 | Z403a | 山口干涉計YIによるX線連星GRS1915+105のフラックスモニター観測 藤沢健太(山口大学) | 10:54 | Z418a | GPUを用いた高速画像一次処理パイプライン 庭野聖史(東京工業大学) |
| 13:54 | Z404a | 茨城 32-m 電波望遠鏡による 6.7 GHz メタノールレーザー源の単一鏡強度モニターを活用した突発現象天文学 および大学教育 米倉寛則(茨城大学) | 11:06 | Z419a | せいめい・かなたによる近傍銀河に現れたCa-rich transient SN 2019ehkの観測 中岡竜也(広島大学) |
| 14:06 | Z405b | 突発天体の即時分光を目指したIRSF近赤外線分光器の開発 國生拓摩(名古屋大学) | 11:18 | Z420a | 近傍に現れた特異なIa型超新星SN 2019mujの可視・近赤外線観測 川端美穂(京都大学) |
| 14:06 | Z406b | 埼玉大学望遠鏡・装置制御系 "SaCRA システム"および36cm望遠鏡の改良 金井昂大(埼玉大学) | 2020年3月17日(火) 午後(13:00-15:00) [B会場] | | |
| 14:06 | Z407b | 光赤外線大学間連携における観測企画運営委員会の活動と有機的連携の実現 山中雅之(京都大学) | 13:00 | Z421r | 超新星・恒星進化理論とOISTERのシナジー 前田啓一(京都大学) |
| 14:18 | Z408b | 光 赤外線天文学大学間連携による短期滞在実習プログラムの実施(3) 大朝由美子(埼玉大学) | 13:21 | Z422r | OISTER と全天 X 線監視装置 MAXI のシナジー: 光赤外線・X 線モニタ観測によるブラックホール X 線連星の 研究 志達めぐみ(愛媛大学) |
| 14:18 | Z409b | 光赤外線大学間連携の望遠鏡によるX線連星の可視光・近赤外線観測 村田勝寛(東京工業大学) | 13:42 | Z423a | BH X線連星MAXI J1820+070の2019年の再増光時における多波長観測(2) 安達稜(東京工業大学) |
| 14:27 | Z410a | せいめい望遠鏡に搭載する可視光高速測光分光器の概要と狙い 野上大作(京都大学) | 13:54 | Z424a | 多波長モニター観測から探るWZ Sge型矮新星の再増光の起源 磯貝桂介(京都大学) |
| 14:39 | | 全体討論 | 14:06 | Z425r | せいめい望遠鏡の開発と運用状況 木野勝(京都大学) |
| 2020年3月17日(火) 午前(09:30-11:30) [B会場] | | 14:27 | Z426r | 恒星フレアの多波長モニタ観測～OISTERとTESS/NICERの連携～ 行方宏介(京都大学) | |
| 09:30 | Z411a | 東京大学アタカマ天文台TAO 6.5m望遠鏡による突発天体観測 土居守(東京大学) | 14:48 | Z427a | 中小口径望遠鏡とTESSの連携によるフレア星 EV Lac の測光分光同時観測 前原裕之(国立天文台) |
| 09:42 | Z412a | 木曾シュミット望遠鏡Tomoe Gozen高頻度突発天体サーベイ 諸隈智貴(東京大学) | | | |
| 09:54 | Z413a | Tomoe Gozen サーベイにおける画像認識を用いた突発天体検出 浜崎凌(甲南大学) | | | |
| 10:06 | Z414a | 木曾広視野高速カメラTomoe Gozenによる微小地球接近小惑星の探索 紅山仁(東京大学) | | | |

年会実行委員会

お申込みいただいた皆様、 ありがとうございました！

観測提案の募集

基本思想は変わらず

- OISTER所属研究者はPIとして提案可、外の研究者も共同提案者となれる
- 突発現象・時間変動天体はTOO、予期できる変動現象はキャンペーン
- 各機関は観測要請を受けて、**マンパワー・装置状態を鑑みて実行判断**

- 今年の定期募集は5月と11月の計2回

(2020年11月13日 (WS終了翌日!) 締切)

- 2020年11月現在、**21件**の有効なプロポーザルが提案
- 締切後、観測検討会を開催

※ 観測検討会：PIが実現したい観測を相談。各機関の望遠鏡・装置の向き・不向きを確認。逆提案もある。観測イメージを共有し、円滑な観測を促す。

- 第二期からの傾向として、**機関外望遠鏡や衛星などの時間を獲得・確保しておいて、観測を強化**する人が増え始めた（各提案者の努力）

-> より成果の出やすい状況に

提出されているプロポーザル

※ 随時募集

2020年10月：Malte Schramm（埼玉大）「Dust torus around SMBHs in Super Eddington accreting AGNs」

山中雅之（京都大）OISTER ToO follow-up for IceCube neutrino event

2020年9月：反保雄介（京都大）「連続測光分光観測による矮新星静穏期の降着円盤の再構成」

2020年7月：Malte Schramm（埼玉大）「Follow-up spectroscopy of the QPE candidate J0231-1020 detected by eROSITA」

2020年2月：木邑真理子（京都大）、低振幅・低頻度のアウトバーストを示す長周期矮新星の可視分光観測

※ 定期募集

2020年5月：

高木聖子（北海道大）「金星探査機あかつきと地上望遠鏡との金星雷同時観測(2020年6月30日・7月11日)」

行方宏介（京都大）「M型フレア星EV Lacのスーパーフレアの彩層放射の連続分光観測～フレアに伴うプラズマ噴出の検出～」

紅山仁（東京大）「多色連続測光観測による微小小惑星の小惑星型の決定とそれを用いた宇宙風化リフレクション作用の検証」

庭野聖史（東工大）「ZTF銀河面サーベイ観測で発見されたBH候補天体の追跡観測」

庭野聖史（東工大）「short GRB及び遠方long GRBの赤外線残光観測」

川端美穂（京都大）「近傍銀河に出現する特異なIa型超新星の可視・近赤外線観測」

磯貝桂介（京都大）「連続測光・分光観測による早期スーパーランプ中の円盤構造の推定」

2019年12月：

木邑真理子（京都大）、WZ Sge型矮新星のアウトバースト中の近赤外線モニタリング ※

木邑真理子（京都大）、矮新星アウトバースト中の可視光分光モニタリング：円盤風由来の線スペクトルの検出

山中雅之（京都大）、特異な性質を持つ外層剥ぎ取り型超新星のToO観測

山中雅之（京都大）、即応及び長期可視近赤外線観測に基づくIIP型超新星の観測的研究

安達稜（東工大）、X線連星のrebrightening現象の可視・近赤外連続観測

中岡竜也（広島大）、星周物質と相互作用を起こす超新星の観測

宝田拓也（埼玉大）、低温度ガス惑星の多波長トランジット観測

前原裕之（国立天文台）、Simultaneous Photometry and Spectroscopy of active M dwarfs

行方宏介（京都大）、太陽型星EK Draにおけるスーパーフレアの彩層放射の検出

観測・解析の実施と報告(Slackを使用)

OISTER ▾ 

● M. Yamanaka (Seimei)

☰ 会話を移動 < >

チャンネル 

- # ev_lac
- # g358p931-0p030
- # general
- # gravitational_wave
- # grs1915p105
- # ic190730a
- # maxi-j1807
- # maxi-j1820
- # pluto_201907
- # question
- # rcrb
- # sn2019ein**
- # sn2019muj
- 🔒 wg-oister
- # zzz_ad_leo
- # zzz_ic190503a

ダイレクトメッセージ 

● M. Yamanaka (Seimei) (

#sn2019ein

☆ | 👤 7 | ☆ 0 | 📌 トピックを追加



🔍 検索



6月19日 (水)



Jun Takahashi (Nayuta) 13:13

昨晚 6/19に観測をしましたが、ディザリング後半は曇ってしまったそうです。観測者は加藤さんです。後日アップします。@M. Yamanaka (Seimei) @Nayuta Observers



1件の返信 5ヶ月前



M. Yamanaka (Seimei) 13:56

ありがとうございます！



Jun Takahashi (Nayuta) 20:14

6/18のデータですが、雲のためか単独の画像ではほとんど写っていませんでした。いちおう、アップしました。



M. Yamanaka (Seimei) 20:16

ありがとうございます。明日あたりMLでもお伝えしますが、川端美穂さんが論文化に向けてピッチを上げています。測光解析を急ぎます。

6月20日 (木)



Kanata(Hiroshima) 06:04

かなた望遠鏡では測光、分光観測を行いました。

スレッド

#sn2019ein



Jun Takahashi (Nayuta) 6月19日 13:13

昨晚 6/19に観測をしましたが、ディザリング後半は曇ってしまったそうです。観測者は加藤さんです。後日アップします。@M. Yamanaka (Seimei) @Nayuta Observers

1件の返信



Jun Takahashi (Nayuta) 5ヶ月前

すいません、6/19ではなく、6/18でした

返信する...



B

I



</>



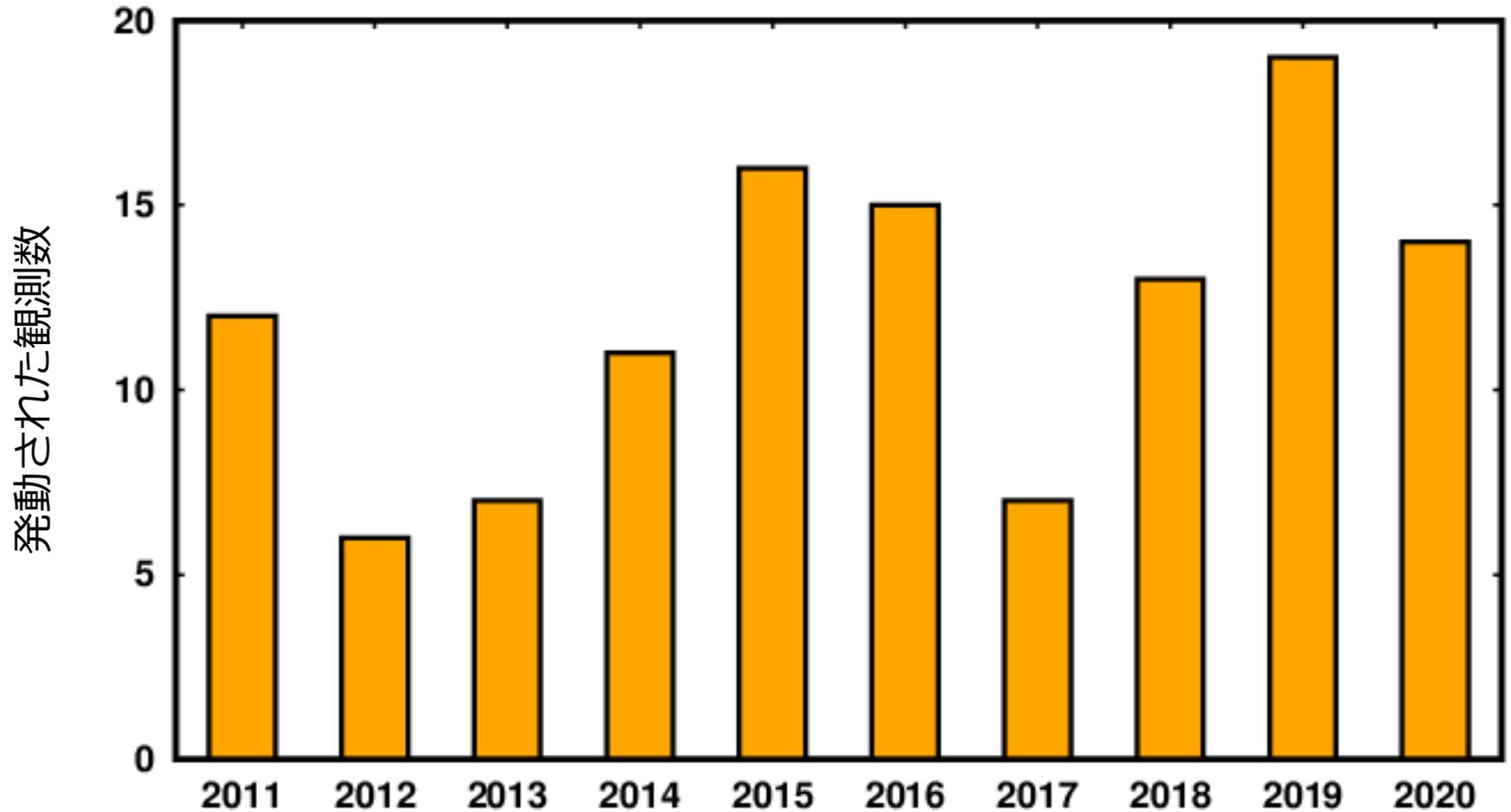
Aa



以下にも投稿する : #sn2019ein ?

送信

ToO・キャンペーン観測のトリガー数



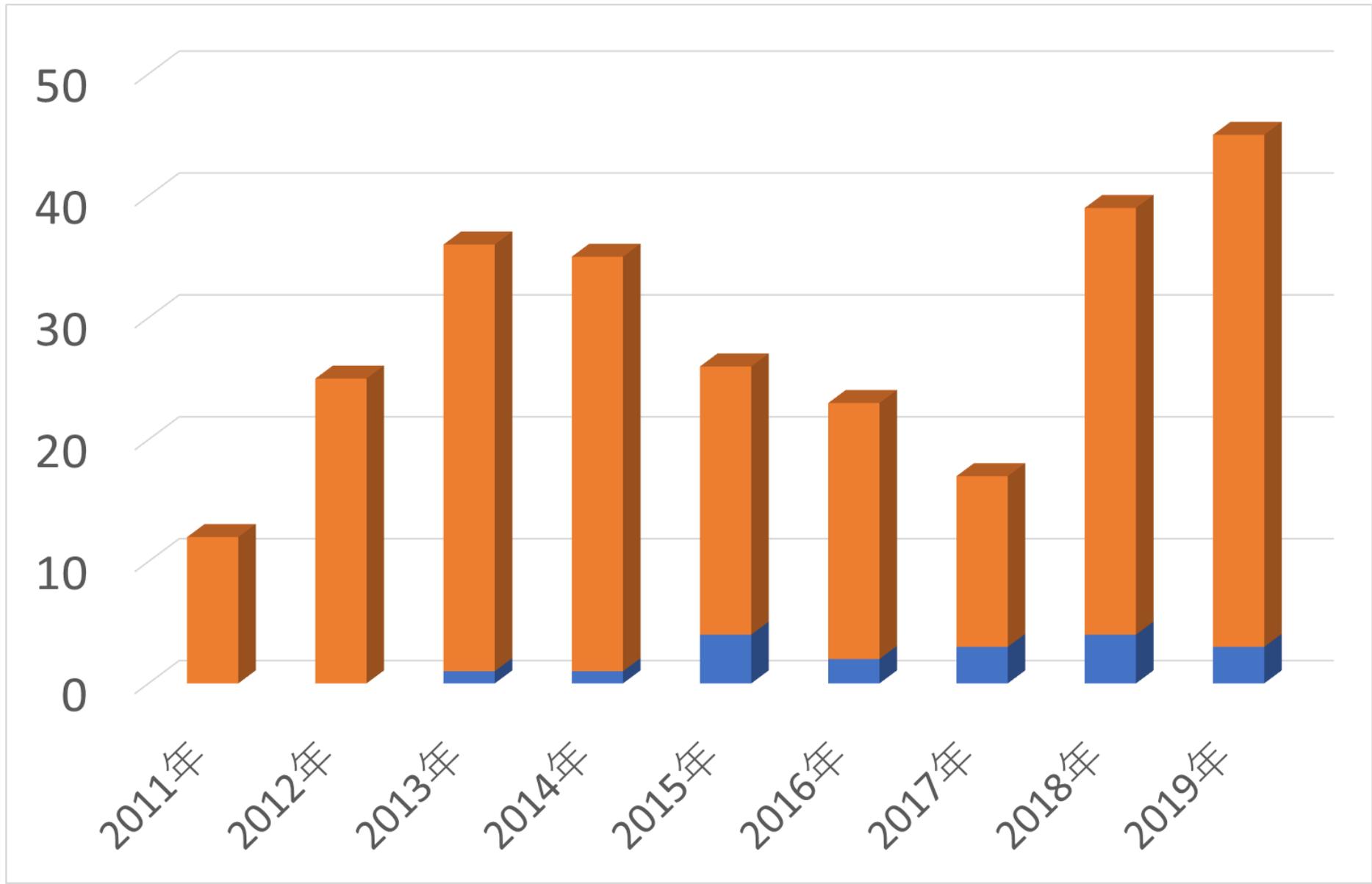
第二期開始直後は体制再整備で減少したものの2019年度には**過去最多**に

進捗報告会の開催

・進捗報告会

- 今年は（1年ぶり）10月5日にZoomにて開催、**19件**の報告
- 観測を発動したPIが観測と解析の状況、研究の進捗、論文化の見込みなどを報告
- 機関側としては望遠鏡・装置ごとのデータ使用状況を把握できる
- 提案者側も得られたデータについて相談できる
- 論文執筆に向けた研究への動機づけ（PASJ特集号へ）
- **多数の観測結果が論文化の見込みあり**と報告
 - > 各機関の委員によるフォローが実を結んだ

OISTERの枠組みで出版された 査読論文数の変遷



PASJ特集号の出版へ

※ (Namekata et al. (フレア星) すでに出版)

Niwano et al. (GPUパイプライン) 受理

Kimura et al. (激変星) 受理

Maehara et al. (フレア星) 受理

以上3編が第一群として2021年2月出版予定

青 = 大学院生

緑 = ポスドク1-2年目

若手が活躍!

Morokuma et al. (高エネルギー γ 事象 IceCube-170922A) 受理

Kawabata et al. (特異なIa型超新星) 投稿

Isogai et al. (激変星) 準備中

Saito et al. (GRBの自動解析パイプライン) 準備中

Yamanaka et al. (OISTERまとめ論文) 準備中

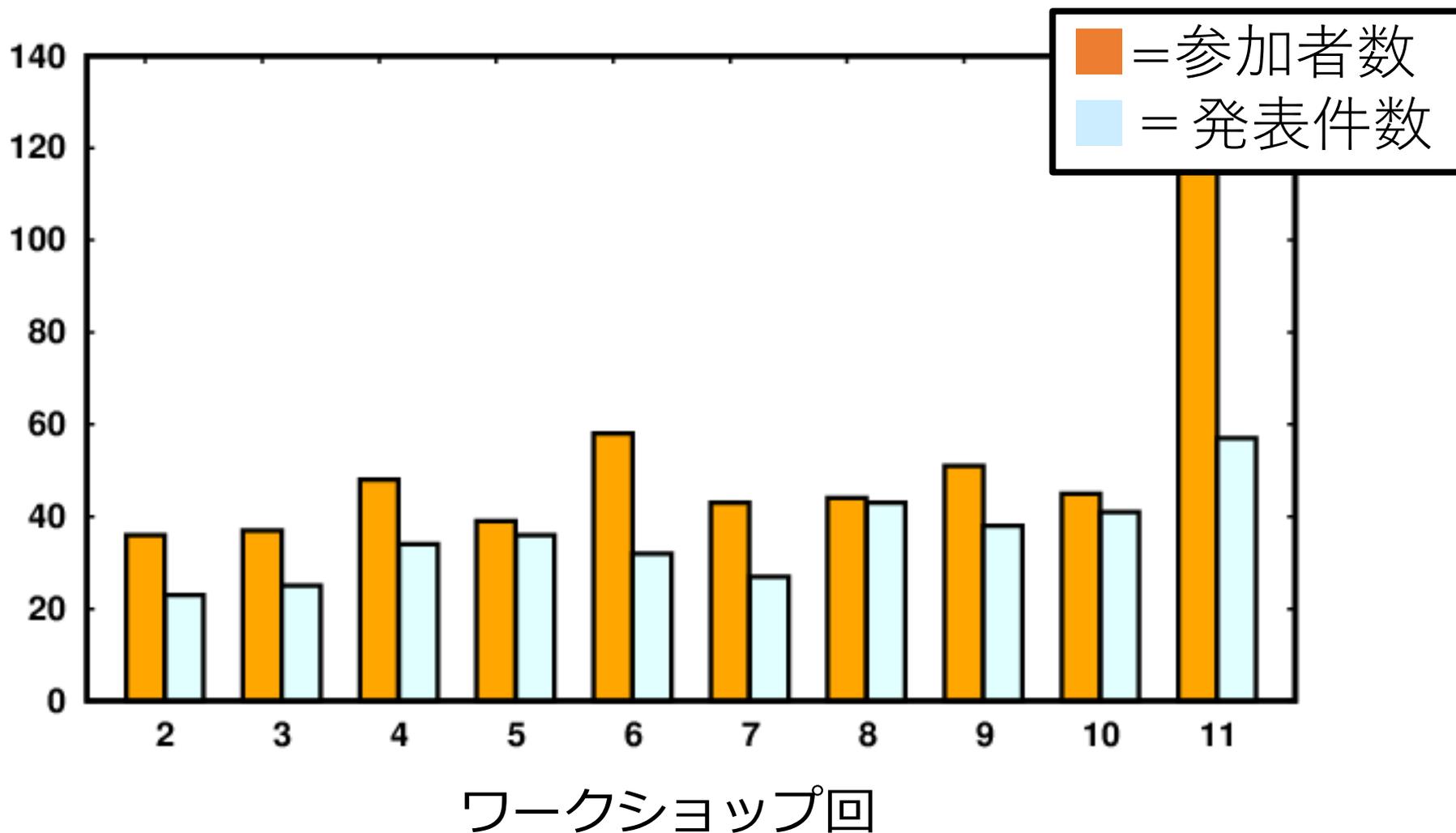
は第二群として準備中

※ 論文執筆者には、

- ・ 論文出版費
- ・ 研究方向のための出張旅費拠出
- ・ 研究会でのOISTER報告の際にアピール
- ・ TOO/キャンペーン観測優先順位の引き上げ
- ・ 独自のOISTER論文賞へのノミネート

などなど**特典盛沢山!**

光外線天文学大学間連携ワークショップ



今年（第11回）は133名の参加・57件の発表
申し込み = **過去最多**！

次期サイエンス検討

- 2022年度からの第三期OISTER継続実現に向けたサイエンス検討を開始
- 昨年末、観測企画運営委員会でも議論が始まった
- 今年4月からNAOJとの議論が始まり、国内VLBI大学間連携との共同サイエンスの可能性も検討を始めた
- これまで4回のNAOJ/JVN/OISTER3者会議、7回のJVN/OISTER実務会議（これとは別に協議会レベルでも2回開催）、5回の次期OISTERサイエンス検討会
- OISTERでの次期サイエンス検討会は、協議会＋観測委員会からの有志7名で構成（川端、太田、大朝、永山、高木、関口、山中）
- 今後のタイムラインとしては、OISTERとして1月頃を目途に概算要求のためのサイエンス課題を収束させていく

次期サイエンス検討に関して会議開催状況

(2019年末～ OISTERでは観測委を中心にサイエンス検討を開始)

今年 5月1日：NAOJ主導でOISTER/JVNとの3者会議

※ 2022年4月からの大学間連携事業として光とVLBIが合同で概算要求を提出する可能性が示される

5月8日：OISTER/JVN 検討会 今後の対応

5月12日：OISTER 観測委+協議会 検討会 今後の対応

5月14日：観測委にて次期サイエンス検討会参加メンバー募集

5月26日：OISTER/JVN サイエンス検討会

5月28日：次期OISTERサイエンス検討WG

6月12日：次期OISTERサイエンス検討WG 第二回

6月17日：OISTER/JVN実務レベルサイエンス検討

6月18日：観測委冒頭にて次期OISTERサイエンス検討WG

6月26日：OISTER/JVN次期サイエンス検討会（実務+協議会レベル）

6月30日：NAOJ/JVN/OISTER NINS/NICA会議

※ 国立天文台井口氏より機構との折衝のための white paper 作成の提案。まずはリスト作成

7月9日：JVN/OISTER 実務ミーティング

7月10日：観測委にて次期サイエンスミーティング

7月15日：第三回 次期OISTERサイエンス検討会

8月12日：OISTER/JVN実務レベルサイエンス検討

8月19日：第四回NINS/NICA打ち合わせ (NAOJ/JVN/OISTER3者会議)

※ WPリストが揃いつつある。「柱」となるサイエンスの検討を開始

9月10日 次期OISTERサイエンス検討会

9月11日 OISTER/JVNサイエンス検討会

10月21日次期OISTERサイエンス検討会

10月29日 OISTER/JVNサイエンス検討会

10月30日 第四回NINS/NICA打ち合わせ (NAOJ/JVN/OISTER3者会議)

※ 「柱」となるサイエンスの提案。WPリスト大中小項目リスト提示

SUMMARY

- 光赤外線天文学大学間連携事業・第二期4年目。
- 第一期から変わらず多くの観測提案がなされ、実際に観測が行われつつある。
- 観測検討会・進捗報告会の開催でPIのフォローを続け、多くの観測結果がサイエンスとしてまとまりつつある。
- TOO/キャンペーン観測による成果としては**過去最多**の5編が受理
- 観測成果の増加はさらなる観測提案を呼び込み、今年**過去最多**の21件のプロポーザルの提案
- 第11回定例WSは**過去最多**の133名が参加、57件もの発表
- 国際的なアピールのため、PASJ特集号の発行を目指す。
- 次期サイエンス検討に向けて活発な議論を行っている。

